

【4-3】

湾・灘の区分	大阪湾、播磨灘
取組の名称	水産多面的機能発揮対策事業
事業期間及び事業費	事業期間：2016～2020年度 事業費：－
事業体制	【事業実施主体】 兵庫県内の漁業者（漁協）等が構成する団体 【モニタリング調査】 調査会社（活動組織がモニタリングを委託） 【必要に応じ、活動組織に助言】 兵庫県水産部局（水産技術センター等）及び兵庫県豊かな海創生支援協議会（県・市町・県漁連等で構成）
事業の背景・目的	水産業・漁村の持つ多面的機能の発揮を図るため、漁業者や地域の住民等が行う効果的・効率的な多面的機能の発揮に資する推進等に資すること
事業場所の詳細	大阪湾（兵庫～垂水地区、岩屋～由良地区）と播磨灘（明石～赤穂地区、富島～丸山地区）の沿岸海域
事業内容	耕耘、稚貝等の沈着促進、機能発揮のための生物移植、機能低下を招く生物の除去、アマモの移植及び播種、保護区の設定、砂浜海底沖等の廃棄物処理、浮遊堆積物の除去、かいぼり、モニタリング等
モニタリング方法（効果・影響の確認方法）	[調査項目] ・海底耕耘：底生生物の種類数や個体数等 ・二枚貝放流：二枚貝の個体数、重量等 [調査時期・頻度] 年に1～2回程度 [調査場所] 兵庫県に面する大阪湾、播磨灘（神戸市ほか10市町・31組織）で各活動組織が活動区域内に設定する定点 [調査地点数] 1活動区域あたり 5～20地点程度 [モニタリング方法] ・海底耕耘：主に採泥器を用いて底質試料を採取、分析し、底生生物の種別の個体数等を測定 ・二枚貝放流：方形枠を設置し、方形枠内の底質を採取し、フルイにかけ、フルイ上に残ったアサリの個体数、湿重量、殻幅等を測定
取組による効果・影響及びその判断基準等	各活動組織が設定する定点において、底生生物の種類数や個体数の調査等のモニタリングが行われている。耕耘の取組について、林崎・江井ヶ島地区では、他地区と比較して底生生物の種数・現存量とも高く、個体数の増加が伺える。一方、明石海峡の淡路島側の地区では他地区と比較して低い状況。
モニタリング結果の活用方法	前年度の調査結果（底生生物量等）と今年度の結果とを比較し、次年度の調査内容に反映
関係機関等における連携・情報共有の方法	活動組織が協議会へモニタリング成果報告書を提出
現状での課題	
今後の予定等	継続して実施する予定。豊かな海の早期再生のためには、継続的な事業実施が必要である。
取組事例についての発表資料等	水産多面的機能発揮対策情報サイト ひとうみ.jp https://www.hitoumi.jp/torikumi/hyogo/
情報提供元	兵庫県 農政環境部 農林水産局 水産課 兵庫県漁業協同組合連合会